

1 単元名 国民生活と福祉

2 単元観

2014年4月から消費税が段階的に8%に引き上げ、2015年10月に10%に引き上げられる予定である。消費税は、生徒にとって最も身近な税金であり、その引き上げは直接影響が出てくる。消費税の導入の目的や、引き上げなければならない理由などを、現在の社会情勢を考え、既習事項や今後の学習内容との関連を図り、身近な問題として取り上げていくことができる単元である。

生徒にとっては税金の種類や内容、使い道等についてよく分からない。消費税を考えることで、そこから税金の目的や必要性を認識し、身近な存在として捉えることができる。税金がなければ我々の生活は成り立たないことにも気づかせたい。そこで自分たちの生活を考えさせ、どんなところで税金が必要かを考えさせることから学習を始めさせた。

本時では、給与収入から納める税金である所得税について、公平に徴収させる方法を考えさせ、累進課税制度として押さえさせたい。また、消費税を比較し、既習事項である少子高齢化、国民の義務、地方財政などとの関連を図り、学習を進めていきたい。

少子高齢化社会を背負って立つ今の中学生に、日本の現在の課題を考えさせ、今後の学習につなげていきたいと考える。

3 単元目標

- ・統計資料をもとに国の歳入と歳出のあらましについて調べ、財政や租税について関心を持つ。
- ・公平は税負担について考え、租税の仕組みと働きについて理解する。
- ・公債の発行の実態と課題について話し合い、財政のあり方について考え、自分の考えを表現する。

4 評価規準

【社会的事象の関心・意欲・態度】

財政について関心を持ち、税金の使い途について、自らの問題として考えている。

【社会的な思考・判断・表現】

租税の公正な負担と公債の発行について、納税者などの様々な立場から公正に判断している。

【資料活用の技能】

国の歳入と歳出のグラフを読み取り、累進課税の実際について計算している。

【社会的事象についての知識・理解】

財政と税制のあらましについて理解し、その知識を身に付けている。

5 評価

- ・統計資料をもとに国の歳入と歳出のあらましについて調べ、財政や租税について関心を持つことができたか。
- ・公平は税負担について考え、租税の仕組みと働きについて理解できたか。
- ・公債の発行の実態と課題について話し合い、財政のあり方について考え、自分の考えを表現できたか。

6 指導計画（9時間扱い）

時間	題材名
1（本時）	政府の経済活動と租税
1	政府の役割
1	社会保障のしくみ
1	少子高齢化と財政
1	公害の防止と環境の保全
1	正解の中の日本経済
1	経済プレゼンテーション「20年後のわたしたちと日本」
1	【深めよう】為替相場と貿易の役割
1	この章の学習をふり返って、みんなで考えてみよう

7 学習過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1, 消費税の値上げについて考える。	一斉	○賛成, 反対の立場を確認し, ヨーロッパの国の状況を伝え, 値上げの理由について考える。	・消費税について考える【関】
展開 40分	2, なぜ税金が必要なのかについて考える。 3, 政府の仕事を確認する。 4, 公平な税負担について, どのような方法があるか考える。 ・①同じ税額をとる ②同じ税率とする ③収入に応じて税を変えるの方法の3パターンで, どれが公平かを考える。 5, 累進課税について実際に税額を計算してみる。	グループ 一斉	○税金がなかったらどうなるかも考えさせる。 ○身の回りの仕事を考えさせる。 ○生活必需品や生活にかかる費用について考えさせ, 低所得者の場合の税について考えさせる。 ○年収500万円, 1,000万円, 3,000万円の3人を比べ, 総額740万円の税額を集める場合を想定し班で案を出す。 ○各自計算させてから, 課税所得を説明し, 税率の変わる部分について計算の仕方を確認する。	・税の使い途について考えることができる【関】 ・公平な税負担について考えることができる【思】 ・累進課税の計算ができる【技】
まとめ 5分	6, 税の種類についてまとめる。	一斉	○税を直接税, 間接税に分類して, 意味を確認し, 国税, 地方税についても説明する。	・税の種類を理解する【知】

8 板書計画

政府の経済活動（収入→支出）⇒財政 予算 →収入（歳入）と支出（歳出） ↑公債が多い 社会保障費が多い 税金（租税）	収入の不足を補うため⇒公債（国債，地方債）
直接税 所得税（累進課税）, 法人税 道府県民税, 自動車税 市町村民税, 固定資産税	→国税 →道府県税 →市町村税
間接税 消費税 地方消費税	